

「地球はどうぶつでいっぱい」 ～あべ弘士絵本原画展～

北海道旭川市出身の絵本作家あべ弘士の絵本原画展、
大らかでユーモラスな動物の世界をお楽しみ下さい。

- 展示日時：5月31日(水)まで 9:00～17:00
※5月3・4・5日は19:00まで
期間中は無休
- 場 所：管理センター 2階ロビー
- 観 覧 料：無 料(入園料は必要)
- 展示内容：絵本作家あべ弘士氏の原画展。
25年間動物園の飼育員として勤めてきた
作者の、自然や動物への愛情あふれる作品
約50点を展示する。

【あべ 弘士(ひろし)プロフィール】

北海道旭川市に生まれる。
25年間旭山動物園の飼育係として、さまざまな動物を担当する。
『旭山動物園日誌』を出版。
旭山動物園を退職し、創作活動に専念する。
北海道旭川市美術館にて「あべ弘士動物交響楽」展を開催。
その後、全国で作品展開催。
講談社出版文化賞絵本賞、赤い鳥さし絵賞など受賞多数。
NPO法人かわうそ倶楽部を設立。
旭川市にてギャラリープルプルを運営する。

天候などの都合により変更・中止することがあります。どうぞご了承下さい。
詳しくは、HP もしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問合わせ下さい。

森の仲間たち



「到津の森公園」公園事務所
北九州市小倉北区上到津 4-1-8
Tel 093-651-1895 〒803-0845
<http://www.itozu-zoo.jp/>

森のお便り 5月号 2017年

発行・編集 「到津の森公園」「森の仲間たち」17年5月1日発行 通巻171号

キーパーズトーク「キリンガイド」 トーマお父さんとマリアお母さんは、とても仲良し。

飼育スタッフが担当動物のおはなしをするキーパーズトーク！
今回は、キリンのどんなおはなしが聞けるかな？

○日時期間：5月・6月の土日・祝日

11:30～11:45ごろまで

○開催場所：「草原の世界」キリン運動場

当園のHPでもお知らせしましたが、3月27日にキリンの赤ちゃんが誕生しました。

赤ちゃんは、女の子で、今はまだ部屋の中ですが、スクスクと元気に育っています。

もしかしたら、皆さんへのお披露目も、近いかもしれません。

そんな赤ちゃんの事や、キリンの生態など、飼育スタッフが解説します。

「到津の森公園15周年記念お弁当」の販売！

到津の森公園15周年記念として、(株)丸ふじさんによる「いとうづのもりのたまご弁当」の販売が決定しました。

この「いとうづのもりのたまご弁当」は、さまざまな方が意見を出し合って出来上がったお弁当で、到津の森公園の動物たちや森をイメージした、とても可愛くてひとつひとつが手作りのおいしいお弁当です。

なお、到津の森公園での販売は、土・日・祝日のみで、1日限定30個、1箱500円(税別)となっております。

ぜひ、「いとうづのもりのたまご弁当」を、召し上がってみてくださいね。

森のなかま・キリン

3年ぶりに

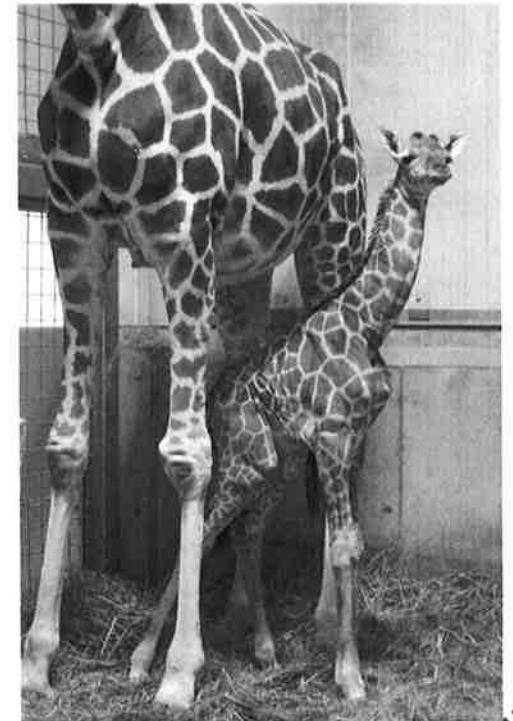
3月26日は、半年に一度のファン感謝祭を行い園内は沢山のお客様で賑わっていました。

実はそんな中、キリンのマリアに出産の兆候が現れました。ソワソワと落ち着きなく動き回るので、寝室に入れ様子をうかがっていました。ソワソワ動き回ったり、落ち着いたりを繰り返し、日付が変わった27日の5:35に無事に出産しました。「いと」を出産し約3年が経ちましたが、出産後はすぐにこどもを舐めはじめ、「望」や「いと」の時と同じように、一生懸命育てようとしていました。こどもも順調に立ち上がり、6:44には授乳を確認できました。

「望」や「いと」に比べると少し小柄なおんなのこです。現在、運動場に出る練習を少しずつ行い、エサ台の階段上からなら、もしかすると見えるかもしれません。

こどもの慣れ具合や、天候によって慎重に進めていますので、見えない可能性もありますが、温かく見守っていただけたらと思います。

もしかしたら、この記事が届くころには、運動場に出る練習を始めているかもしれませんので、HPを要チェックをお願いいたします。



飼育展示係 宮崎 和宏

花暦 皐月

「姿見の池」の端に夏緑性のクサソテツが美しい緑の葉を広げ始めました。

四月初めには渦巻状に丸まった新芽が萌えはじめ、シダ好きならずとも春のきざし感じさせてくれる可愛い植物です。

その新芽は最も美味しい山菜の代表“コゴミ”として有名です。北日本では大群落が見られるそうですが、残念なことに九州では野性の物はなかなかお目にかかれません。

夏涼しく乾燥しない環境が好きなようです。

私は幼い頃このコゴミのビン詰めが大好きで、しきりに親にねだった思い出があります。成長したクサソテツがどんな植物かも知らずに。五月新芽は太い茎となり、ぐんぐん伸びて柔らかい草質の小葉をつけた姿はまさに“ソテツ”。1m近くにまでなるこの葉は栄養葉(裸葉)と呼ばれ、その名の通り、同化作用で栄養を作ります。地際から立つこの栄養葉の束の内側から少し小形の孢子葉(実葉)と呼ばれる葉が秋に現れます。

その緑の小葉は左右からくるりと巻き、その内側に孢子をぎっしり抱き込んでいるのです。この孢子葉は冬に入り、茶色になってもそのまま立ち尽くし、春になって孢子をまき散らします。

ほら五月の今でも、新緑の栄養葉の中心に役目を終えた茶色い孢子葉の姿があるでしょう。

花材にも用いられる個性的な色合いと形です。シダ植物特有の2葉性という特徴を分かり易くみせてくれるクサソテツ。

和風庭園に重宝がられています。モダンな洋風庭園にもきつと似合うな一と、庭らしいものを持たぬマンション住いの私は、クサソテツの孢子葉の不思議な姿を眺めるのです。

文：花咲くおばさん